

1. 自己評価

- 目的 1. 学校の教育目的、教職員の学校運営に対する意識の啓発を図る。
 2. 学校にかかる自己点検・自己評価に関する事項を公表することで、学校運営の改善を図るとともに社会に対する説明責任を果たす。

2. 自己点検の項目

「看護師養成所の自己点検・自己評価指針」に基づく9カテゴリー（126項目）

	カテゴリー	点検項目数
I	教育理念・教育目的	8
II	教育目標	
III	教育課程経営	31
IV	教授・学習・評価過程	17
V	経営・管理過程	44
VI	入学	4
VII	卒業・就職・進学	7
VIII	地域社会・国際交流	7
IX	研究	8

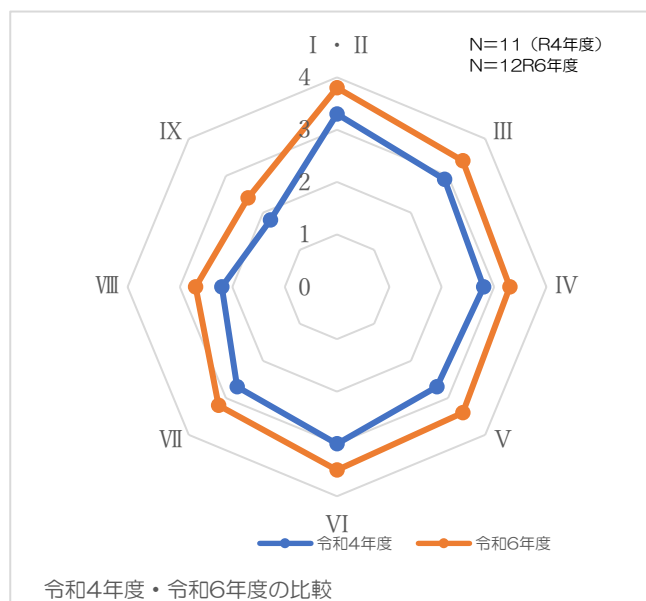
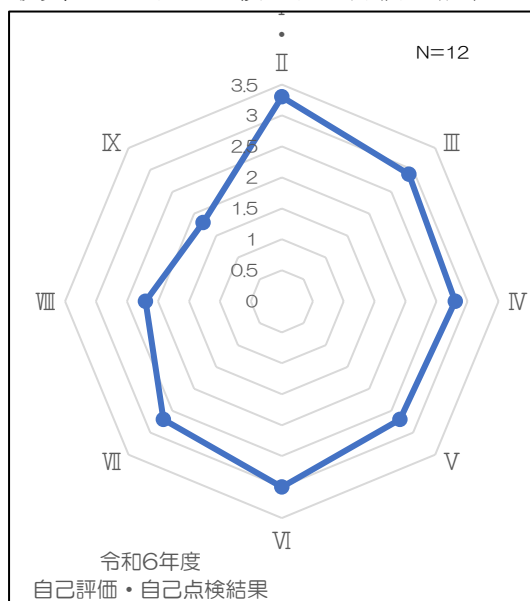
3. 評価基準：4段階評価

4：あてはまる 3：だいたいあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない

4. 調査実施および報告

- 1) 調査期間：令和7年5月26日（月）～令和7年5月30日（金）
- 2) 調査対象教員：12名
- 3) 学内報告日：令和7年6月16日（月）（予定）
- 4) 理事会報告日：令和7年6月23日（月）（予定）

5. 教員による自己点検・自己評価の結果



カテゴリー		平均	現状と課題	令和7年度に向けての改善策
I	教育理念・教育目的	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・十分行われている。 ・理念、目的等の明示は出来ているが、学生・生徒への浸透が不足している。 ・便覧のAP, DP を含み、入学時、進級時には説明を行っている。 ・卒業までに習得すべき技術項目を明示し授業内容や試験項目を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目標、教育目的等について説明を行っているが、再度周知させるための方策を検討する。
II	教育目標			
III	教育課程経営	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・AP, CP, DP を意識した活動が行えている。 ・評価体制としてルーブリック評価や、GPA も検討されている。 ・教員の専門性については、経験がない科目についても講義や実習を担当している。 ・教員のクリニカルラダーを導入したが、相互研鑽のシステムには至っていない。 ・研究授業等が行われておらず、教員自らが成長につながる体制ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後 GPA を取り入れていくにあたり、教員間の理解を深めながら運用の確立を目指す。 ・教員のクリニカルラダーに関しては一度見直しを行うが、ラダーを活用した研鑽のシステムを構築していく。 ・研究授業等を取り入れ、教員の成長につなげる。
IV	教授・学習・評価過程	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術は、講義、演習を選択し、教員間で共有が図れている。 ・担当制に変更したことで共有出来ている部分とそうでない部分がみられる。 ・授業評価は個人に任されている部分があり、卒業生や卒業生を受け入れた施設等からの評価はされていない。 ・シラバスや各要綱など学習の動機づけとなる資料を活用できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容マトリックスがないため、マトリックスを作成し見直しを進めていく。 ・担当制に関しては導入後1年しか経過していないため、今後業務改善等を図りながら評価を行なう。 ・卒業生や卒業生を受け入れていただいている施設等からの評価がもらえるシステム作りをする。
V	経営・管理過程	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用し効果的に行われている。 ・財政基盤として、コスト削減については教職員全員で取り組むことができている。 ・予算編成に関しては、少なからず教職員全員に周知できていない。 ・学生への支援として、さまざまなサポート体制がある。しかしメンタル面での支援が不足している。 ・自己評価結果についてホームページに公表していたが、職員間に周知ができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用を推進しているが、コスト削減を含め教育体制に活用できることを、教職員で検討しながら進めていく。 ・自己評価に関しては、教職員へ周知しながら公表する。 ・学生支援としてのメンタルサポートについては、チューターを中心とし支援する。
VI	入学	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのポリシーを説明する機会が多くなっている。 ・入学者の選抜は公平に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者の募集について、教職員全員で分担して活動する体制をつくる。

VII	卒業・就職・進学	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時の就職状況と進学状況は共有されている。 ・基礎看護技術のテストにて取り入れたOSCEを。卒業時の技術到達に関する評価方法として演習を行っている。 ・卒業後の学生・生徒の追跡調査（評価）までは実施していない。数年おきにもでも現状把握ができれば、教員の指導の成果、評価につながると思う。 ・卒業生の看護実践能力の評価を行っていない。卒業後の活動状況を捉える方法が明確でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学科においては、看護師合格率 100%を達成できるよう分析し改善していく。 ・卒業生の状況を把握する方法を検討し、個人情報を守りながら公表する方策を考える。
VIII	地域社会・国際交流	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の病院、施設、その他あらゆる場所で実習を受け入れてもらっている。 ・ボランティア活動が行われていない。 ・国際的視野を広げるための環境は整っていない。 ・便覧には留学生支援について掲げられているが、海外からの受入れ希望者は現在までいない。 ・便覧の中には留学生支援制度は記載されているが、実際にどのように支援していくのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れについて、具体的方法を検討していく。 ・地域社会とのつながりを持たせるためボランティア活動について検討する。
IX	研究	2.4	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的に制約がある。 ・教員の研修の機会はいただいている。 ・自分も行っていないが、研究を行っている学生の発表の機会を設ける。 ・日常の業務、授業の準備にとどまっている。 ・教員の研究活動は消極的であり、学校は研究成果を発表する機会として学報を発行していない。 ・研究倫理審査委員会の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査委員会の規定は作成したため、その規定の中に「研究」に関する内容を盛り込んでいく。 ・研究や研修について自主的に計画するシステムや全体で取り組むための枠組みを作っていく。
平均		3.2		